

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.85 習志野第九演奏会活動助成事業			担当課	社会教育課			予算費目名	款	項	目
事業概要 及び目的	習志野第九演奏会（主催：NPO 法人習志野第九合唱団）に対し補助金交付、団体の自立支援を図るとともに、市民に身近な鑑賞の機会を提供する。			成果指標 ①補助金交付額 ②入場者数 ③入場者1人当たりの補助金額	年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
					予算額（単位：円）	800,000	800,000	800,000	800,000		
					決算額（単位：円）	800,000	800,000	800,000			
					従事職員数	1	1	1			
事業の 位置づけ	章	1	豊かな人間性と暖かさを育むまち	★左記施策（号）との結び付き 合唱愛好者に発表の機会を与え、聴衆には身近な場所で本格的な音楽鑑賞ができる場を与えることにより、芸術・文化活動の促進を図る。	従事延べ日数	12	12	12			
	節	1	豊かな人間性を育む教育の推進		民間活力の導入 現状は？：■実現している □将来可能性はある □将来困難だが可能性はある □余地なし 相手は？：□市民 ■市民活動団体 □企業・学校等 形態は？：補助						
	項	1	生涯学習、生涯スポーツ、芸術・文化活動の振興								
	号	3	芸術・文化活動の促進								

2. 進捗状況

		平成 21 年 7 月 22 日記入				平成 22 年 5 月記入				平成 23 年 4 月記入														
年度	21 年度評価（20 年度実施した事項についての評価）								22 年度評価（21 年度実施した事項についての評価）								23 年度評価（22 年度実施した事項についての評価）							
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由										
完了した事項	・補助金の交付 ・パートナーシップ会議の実施 ・演奏会開催に対する支援			マネジメント能力を持った人材の不足、財政基盤の弱さがあるため。	・補助金の交付 ・パートナーシップ会議の実施 ・演奏会開催に対する支援			マネジメント能力を持った人材の不足、財政基盤の弱さがあるため。	・補助金の交付 ・パートナーシップ会議の実施 ・演奏会開催に対する支援			マネジメント能力を持った人材の不足、財政基盤の弱さがあるため。												
継続している 事項	・NPO 法人として単独で演奏会を実施できるための支援				・NPO 法人として単独で演奏会を実施できるための支援				・NPO 法人として単独で演奏会を実施できるための支援															
未着手事項																								
改善案	団塊の世代を中心として、マネジメント能力を備えた人材を確保し、「経営」という視点を持って演奏会の運営を行えるようにする。			成果指標 実績値 達成率 ①800,000円 100% ②1,300人 100% ③615円 100%	団塊の世代を中心として、マネジメント能力を備えた人材を確保し、「経営」という視点を持って演奏会の運営を行えるようにする。			成果指標 実績値 達成率 ①800,000円 100% ②1,325人 100% ③604円 100%	マネジメント能力を備えた市民カレッジ受講生・OB を運営メンバーに加え、「経営」という視点を持たせ、演奏会の運営をより自立した形で行えるようにする。			成果指標 実績値 達成率 ①800,000円 100% ②1,421人 100% ③563円 100%												

3. 今後の方向性

		※課内協議を経て管理職が記入してください。平成 21 年 7 月 29 日協議実施				平成 22 年 6 月 10 日協議実施				平成 23 年 4 月 20 日協議実施								
今後の方向性	成果の方向性	拡充	○				成果の方向性	拡充	○				成果の方向性	拡充	○			
	現状維持						現状維持						現状維持					
*根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか？なぜその「コストの方向性」をえらんだか？別紙「評価の視点」を参照してください。	縮小						縮小						縮小					
	休廃止						休廃止						休廃止					
		休廃止	縮小	現状維持	拡充		休廃止	縮小	現状維持	拡充		休廃止	縮小	現状維持	拡充			
	コストの方向性																	
	★上記を選択した根拠 将来的には助成に頼らず単独で演奏会運営ができるような体制にしていくため。																	
	★上記を選択した根拠 補助金の休廃止であって、演奏会を廃止しようとしているものではないのでご注意ください。																	
	★上記を選択した根拠 平成 24 年度から補助金廃止、但し市関係の招待については、市がチケットを買い上げるといった提案をしてある。合奏団側は難色を示しているが、検討中である。																	
方向性を実現するため実施すること（改革案）	市の支援体制の見直しやメセナ企業との連携に努力してもらうなど、NPO 法人による自主的かつ効率的な運営を促進する。				平成 18 年のNPO 法人設立から順調に自立してきており、この際、補助金廃止を考えたい。引き続き県民芸術劇場補助金を申請するのに加えて、メセナ企業の掘り起こしなど、市補助金を廃止した上で演奏会の発展拡充を図っていきたい。				合唱団事務局に、市民カレッジまちづくりコース受講生を投入することなども、金銭以外の支援として有効であり、合唱団側としても望んでいる。金銭を与えることだけが支援だという構図を崩していきたい。									
前年度改革案の実施状況	■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。																	